

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 人間福祉研究科 |
| 大項目 | 11 教員・教員組織(研究科) |
| 中項目 | |
| 小項目 | 11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。 |
| 要素 | 教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化 |
| 小項目 | 11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 |
| 要素 | 編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院) |
| 小項目 | 11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。 |
| 要素 | 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事 |
| 小項目 | 11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。 |
| 要素 | 教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性 |

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|--------------------------------------|---|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 研究科のカリキュラムを担当できる教員を増やす。 | →昇任人事や大学院担当資格審査の件数および承認された実数。 | A | A | A | A | |
| 2. 教員の研究業績を広く公表する。 | →著書・論文・調査報告書などの件数。 | B | B | B | A | |
| 3. 教員の定期的評価により研究能力を向上させる。 | →学会などでの発表数、研究会開催数と参加者数。 | B | B | B | B | |
| 4. 教員の教授法などの公開により教育能力を向上させる。 | →学生による授業評価、FD研修会の開催数および参加者数、テキスト・啓発書等の教材の発行数、編集・執筆者数。 | B | B | B | B | |
| 5. 研究科教員として望ましい教員のあり方に関する指針、内規を作成する。 | →文書により明示された申し合わせ、内規、合意メモの作成。 | C | C | C | C | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|-------------------|-----------|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|---|
| 目標1 | 昇任人事や大学院担当資格審査を適時行い、かつ大学院前期課程におけるカリキュラム科目数および担当教員を増やし維持している。 |
| 目標2 | 著書・論文・調査報告書など研究業績をホームページおよび『Human Welfare』を用いて広く公表している。 |
| 目標3 | 教員の定期的評価は実施していないが、大学院FD委員会による研究会を年4回開催して、研究能力の向上に努めている。 |
| 目標4 | 大学院における「学生による授業評価」に加えて、大学院FD委員会による研究会の定期的な開催、著書やテキスト・啓発書等の教材について教授会の冒頭に紹介して、教員の教授法など教育能力を向上させている。 |
| 目標5 | 研究科教員としての任用について文書（内規）にて作成し、研究科委員会にて審査委員会を設けて審査し、そして審議・承認している。 |
| 備考 | |